



十六銀行

# 十六アジアレポート 2019年10月号

JUROKU ASIA REPORT OCTOBER 2019

2019年10月1日 発行

十六銀行 法人営業部 海外サポート室

## 目次

1. シンガポール:「ラッフルズ上陸 200年(Singapore Bicentennial)」  
シンガポール駐在員事務所 富田邦裕
2. タイ:「タイ王国の海外旅行事情」  
バンコク駐在員事務所 堀江幸康
3. ベトナム:「米中貿易戦争の影響」  
ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之
4. 上海:「歴史とイノベーションの都市 杭州市」  
上海駐在員事務所 村瀬範晃
5. インドネシア:「続くインフラ投資」  
バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人
6. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

# 1. シンガポール:「ラッフルズ上陸 200 年(Singapore Bicentennial)」

シンガポール駐在員事務所 富田邦裕

リー・シェンロン首相は 8 月 9 日の独立記念日で「今年はラッフルズ上陸 200 年だが、シンガポールの歴史はそれ以前にもさかのぼることが出来る」と述べました。“それ以前にもさかのぼる”とはどのような歴史なのか、今回レポートしたいと思います。

シンガポールの歴史は 1819 年にラッフルズ卿（写真）の上陸とともに始まっております。ラッフルズはイギリスの東南アジア植民地政策に重要な役割を果たすなど、近代シンガポールの建設者といわれてきました。彼は 1819 年 1 月、マラッカに代わるインド・中国貿易の寄港地としてシンガポールに上陸し、1820 年に自由港宣言をしました。目論見通りシンガポールは瞬時にアジア交易ネットワークの中心として繁栄し、アジア各国から移民が集まり人口も急増したため、彼は都市計画と民族別居住区の策定を行いました。チャイナタウンもその一つです。ただし、ラッフルズ上陸後のイギリスの植民地支配、日本軍の占領・統治、戦後イギリスの再植民地支配、1963 年のマレーシア連合統合・2 年後の分離独立といった近代史は学校でほとんど教えられてこなかったそうです。イギリスの植民地支配や日本軍の占領等、過去の歴史よりも国の将来の経済発展を最重視したためなのかもしれません。



ラッフルズ上陸地点に設置された銅像（筆者撮影）

マレーシアとの分離の背景には民族対立があり、独立後シンガポールは能力主義社会を実現することでマレーシアよりも速く発展しました。そして華人が多数を占める国として、政府はシンガポールのルーツをマレーの世界や中国と関連付けられることを懸念し、周辺国にシンガポール介入の口実を与える可能性を無くす狙いのもと、イギリス人のラッフルズという中立の人物をシンガポールの建設者としたのです。銅像を作り、駅や建物の多くに名前を付けたのは、マレーシアとの関係よりも重視していた欧米国に対して安心感を与えるためでした。こうして歴史が無視されました。その後マレーシアとは ASEAN 経済協力の促進により友好関係を回復しておりますが共存と競争は続けております。

2019 年 3 月、国際シンポジウムで「ラッフルズ再考」がなされ、彼がマレー王朝の貴重な歴史資料を略奪しなければ詳細の歴史が明らかになったこと、初代シンガポール駐在官であったファークアルという人物が、実質的にシンガポールの街づくりとインフラ整備などを行ったこと等、近年歴史認識の修正がありました。現在フォートカニングセンターではラッフルズ以前の歴史を重要視した歴史体験が行われており、今後も東南アジアの一国として近隣諸国との友好関係を仲介しながら発展していくことへのアピールと、最近強まる中国の影響を懸念してシンガポール人としてのアイデンティティを作ることを、政府が主導しております。

先程のフォートカニングセンターでは国民に対し“シンガポールにとって最も重要な DNA は？”というクイズを実施しております。Multiculturalism（多文化主義）、Openness（寛容さ）、Self-Determination（民族自決）のなかから選択する形式であり、12 月末まで実施するそうです。一番多かったものが答えであり、改めて現地にて確認したいと思います。多民族・多言語・多文化国家であるシンガポール人と日系企業がビジネスをするうえで、歴史認識と共に知っておく必要があるのかもしれません。（参考：北九州市立大学 田村慶子氏講演会「ラッフルズ上陸 200 年祭を考える」）

## 2. タイ:「タイ王国の海外旅行事情」

バンコク駐在員事務所 堀江幸康

皆さんは夏休みをどうお過ごしでしたか？夏休みを利用して旅行に出掛けられた方もいらっしゃると思います。ここバンコクでも日本の方や中国の方、西洋の方など、多くの海外からの旅行者の方をお見掛けしました。今回は「タイ王国の海外旅行事情」を取り上げてみたいと思います。

### ■世界の旅行者が訪れるタイ・バンコク

米クレジットカード大手の Master Card がまとめた、世界各都市の外国旅行滞在先ランキング（2018年度版）によれば、タイ王国の首都バンコクが旅行者数で4年連続のトップに立ちました。バンコクを訪れた外国からの宿泊客は、昨年1年間で2,278万人に達しました。今年は更なる伸長が予想されています。

その内訳は中国本土からの旅行者が最も多く、日本、韓国、インド、英国がそれに続いています。タイ王国観光スポーツ省によれば、2018年にタイを訪れた日本人は約166万人に達しました。

### ■タイ人の海外旅行者が年間1,000万人を突破

タイ王国の商銀大手カシコン銀行傘下の民間総合研究所カシコン・リサーチ・センターが発表したレポートによれば、昨年（2018年）に、初めてタイ人の海外旅行者が1,000万人に到達したと推計され、今年（2019年）は、1,055万～1,075万人に上ると予測されています。

では次に、タイ人がどの国や地域へ旅行しているかデータを見てみましょう。米国カード決済大手VISAの最新の調査によれば、人気の旅行先トップは日本で（64%）、香港、シンガポール、韓国、中国がそれに続いています。また、日本政府観光局（JNTO）によれば、2018年に日本を訪れたタイ人は、過去最高を記録し、約113万人に達しました。

### ■白川郷が大健闘！タイ人に人気の日本の観光地

では、タイ人は日本のどの観光地を訪れているのでしょうか？タイ人向け訪日旅行サイト「チルチル・ジャパン」を運営するアジア・インタラクション・サポートが4月に発表した『タイ人の訪日旅行に関する意向調査2019』によると、人気観光スポットは、1位が富士山、2位は白川郷、3位は東京ディズニーリゾートでした。その他にも56位に下呂温泉、61位になばなの里、66位に名古屋城がトップ100に入るなど、地元が健闘を見せています。

最近では、タイ人のYoutuberが世界の観光地を紹介する動画をアップしており、これが海外旅行ブームの後押しとなっているようです。タイの方が白川郷を見て「スワイ！（美しい!）」と感動して、五平餅を食べて「アロイ！（美味しい!）」と喜んでいる姿を見ると、なんだか地元のことを誇らしく思えてきます。

タイ王国では、近年の順調な経済成長により、多くのタイ人の方が海外旅行を楽しめるようになってきました。タイ人の方が実際に見て、触れて、感じた「日本の良さ」を紹介してもらうことで、日本のファンが増えていくと嬉しく思います。

訪日タイ人の人気観光地ランキング2019  
トップ20

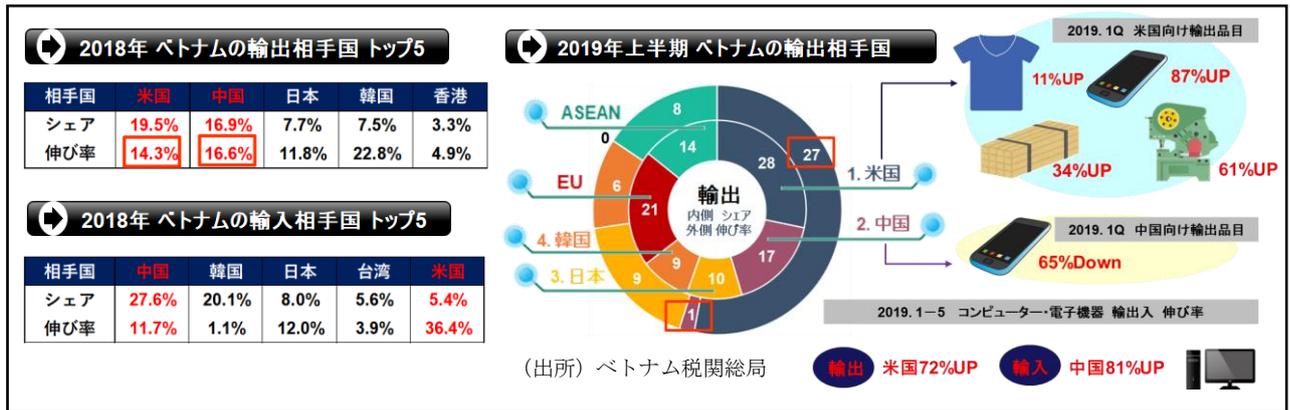
順位	スポット名	昨年順位
1	富士山	1
2	白川郷	2
3	東京ディズニーリゾート	4
4	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	3
5	河口湖	5
6	大阪城(造幣局・博物館含む)	6
7	浅草寺	8
8	東京タワー	7
9	上高地	13
10	姫路城	13
11	清水寺	10
12	ガーラ湯沢	9
13	日本アルプス	12
14	立山黒部アルペンルート	11
15	由布院温泉／湯布院	15
16	伏見稲荷大社	18
17	金閣寺	25
18	皇居	31
19	別府温泉／別府	35
20	小樽運河	20

出所:Asia Interaction Supports

### 3. ベトナム:「米中貿易戦争の影響」

ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之

米中貿易戦争が長期化した場合、「ベトナムが最も影響を受けやすい国」と言われています。理由は「米国と中国への高い貿易依存度」にあります。2018年のベトナムの主要輸出入相手国を見ると、輸出の40%近くを米国と中国が、輸入の30%近くを中国が占めています。ベトナムにとって米国は最大の貿易黒字国であり、輸出の約3分の1を「縫製品」が占めています。また、中国は最大の貿易赤字国であり、「生産用の電子部品や機械設備・部品、織布・生地」など経済活動に不可欠なものが殆どです。

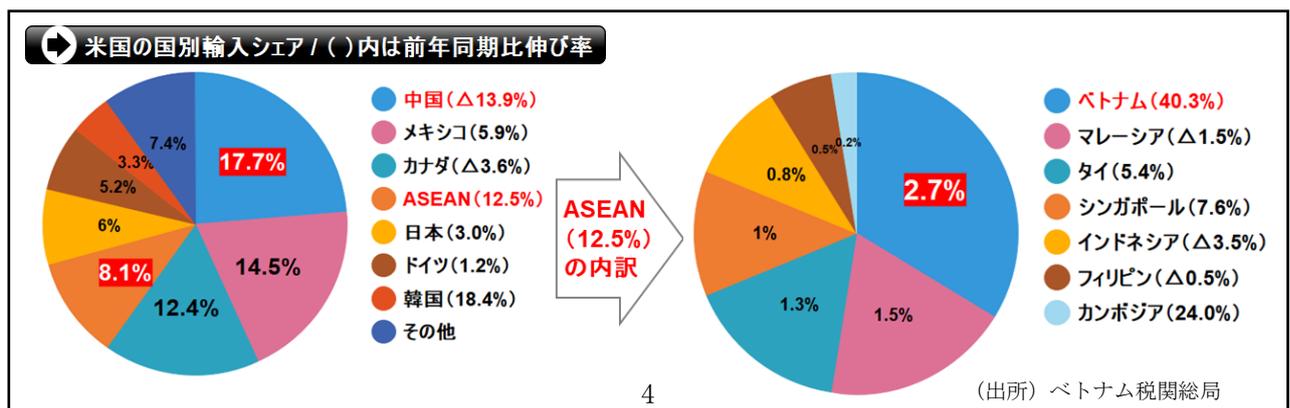


次に、2019年上半期のベトナム主要輸出相手国のシェアを見ますと、興味深い結果となっています。米国への輸出額については、2018年における14.3%の成長を上回る27%の伸び率となりました。中国の代替国としてベトナムからの米国向け輸出が増えている可能性があります。米国向け輸出の3分の1を占める縫製品に加えて、「電話機・同部品」が前年同期比87%増となり、「木材・木製品」は34%増、「機械設備・同部品」は61%増と大幅に伸びています。

一方、中国は、2018年に16.6%成長するなど近年は増加傾向にありましたが、2019年上半期は僅か1%に留まっています。「携帯電話・同部品」の輸出額が65%減と大幅に減少したことが要因と思われます。今年1~5月のベトナム貿易データによれば、ベトナムから米国に輸出されたコンピューター・電子機器は72%増となっており、同じ製品区分での中国からの輸入が81%増となっていました。迂回輸出の可能性があり、ベトナム商工省も「貿易の不正行為が増えている」と指摘しております。

#### ■米中貿易戦争によるマイナスの影響

この状態が続けば、原材料や部品を中国から輸入して製造しているベトナム製品に対して、米国が「中国からの迂回輸出」と見なし、制裁関税を課することが危惧されています。実際これまでに、農産物や繊維、鉄鋼、合板などの製品のラベルの貼り替えが発見されております。米国はベトナム鉄鋼製品に対して、中国産の材料を使用して製造されていることを理由に、25%の輸入関税を課することを決定しました。



米国の国別輸入シェアを見ると、ベトナムはASEANの中でトップとなっています。世界12番目ですが、このまま行けば年末にも7番目まで上昇すると言われています。さらに、ベトナムは世界で5番目の貿易赤字国となり、かつ赤字幅も年々増加傾向にあるため、貿易戦争が長引くことで制裁関税の賦課対象がベトナムにも及ぶ可能性があります。

もう一つの主なマイナスの影響は、中国経済の不景気などの影響で中国製品の余剰在庫がベトナムに大量に輸入された場合、対中貿易赤字の拡大が懸念されます。状況によってベトナム政府は、鉄鋼関連製品等にアンチダンピングやセーフガードなどの貿易救済措置を検討する必要があります。

◆米国の貿易赤字上位5ヶ国(2017年/10億USD)



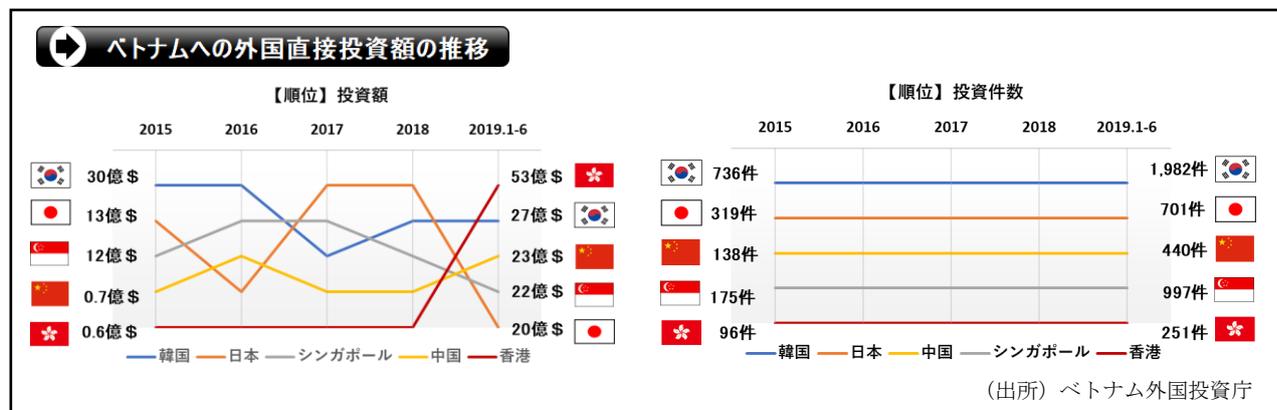
(出所) 米国商務省



(写真) 筆者撮影

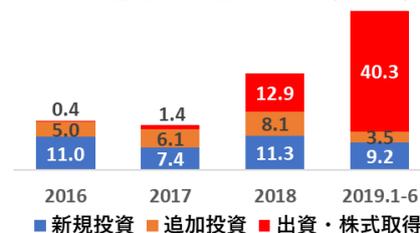
■米中貿易戦争によるプラス(?)の影響

次にプラスの要因ですが、中国から隣国ベトナムへの生産移管が期待されています。2019年上半期の外国直接投資の推移を見ると、ここ1数年の傾向に大きな変化が表れています。これまでは韓国と日本が1位・2位を争ってきましたが、投資額において上半期の1位に香港が、3位に中国が入りました。中国からの投資は174%増加しました。なお、香港の1位については、飲料メーカーの大きな投資がありました。ベトナムに嫌われていることを知っている中国企業が香港経由で投資している事例もあります。



一方、投資件数で見れば、韓国の1位、日本の2位に変化はありません。いかに中国・香港の一企業当たりの投資額が大きいか分かります。また、香港の投資形態を見てみますと、一からの進出ではなく、出資や株式取得による迅速な方法での進出であることが見て取れます。

香港の対越FDI推移 (億USD)



(出所) ベトナム外国投資庁

これらの事象を見る限り、報道では「ベトナム投資が増えプラス」とされていますが、実際、日系企業にとってはマイナスの影響だと思えます。ベトナムはASEANで唯一中国企業をシャットアウトしてきた国ですが、中国企業の進出増により、工場用地が高く買われたり、数万人単位で人材を奪われたり、人件費の相場を吊り上げられたりすることが危惧されており、今後の動向が気になるところです。

## 4. 上海:「歴史とイノベーションの都市 杭州市」

上海駐在員事務所 村瀬範晃

浙江省杭州市は、上海から高速鉄道に乗り1時間半程で行くことができる身近な観光地です。浙江省の省都であり、中国六大古都（北京・南京・西安・洛陽・開封・杭州）のひとつ。秦の始皇帝がこの地に銭塘県を設置して以来、2000年以上の歴史を持ちます。

隋の初年に当時の皇帝によって進められた京杭大運河の開通により、杭州は交通や交易の南の拠点として栄えてきました。また、呉越（893～978年）と南宋（1127～1280年）には都も置かれ、特に南宋以降は名産の龍井茶やシルク等の商品経済が栄え、文化も発達しました。この頃杭州を訪れたマルコ・ポーロはこの都市を「地球上の楽園」と絶賛するほどでした。

### ■古くからの観光名所

現在でも街中には寺院や塔などが点在しており、古都の風情を感じることができます。また、市西部にある『西湖』は2011年に「杭州西湖の文化的景観」として世界文化遺産に登録され、中国有数の景勝地として内外の観光客で賑わっています。



【雷峰塔から望む西湖】

### ■岐阜市との友好姉妹都市

あまり知られていないかもしれませんが、西湖の畔、桜の木々に囲まれた静かな場所に、一つの石碑が建てられています。1962年に、友好姉妹都市である岐阜市から杭州市に《不戦の決意》として寄贈された石碑です。石碑には「日中不再戦」と刻まれ、当時の人々の平和を強く願う思いが込められています。尚、杭州市から岐阜市に寄贈された石碑は岐阜公園に建立されています。



【日中不再戦の石碑】

### ■中国初のデジタルエコノミー都市

杭州市は古都の一面を持つ一方で、電子商取引大手アリババの本拠地としても有名です。新技術と新しいアプリケーションによって生み出されたエネルギーと、山と川を特徴とする素晴らしい都市環境のおかげで、若い中国人や外国企業家の間で次第に人気が高まっています。また杭州市は、中国初のデジタルエコノミー都市を建設し、中国のデジタル経済発展を先導する都市になるべく取り組んでいます。

### ■これからの杭州市

先般杭州市において、第5世代（5G）移動通信システムのイノベーション拠点として「中国(杭州)5G創新谷」が開業しました。これにより5G産業の人材や資源が集積され、向こう5～10年で川上産業によるコアデバイスの開発や川下産業の応用・開発が進み、5G産業のリーディングカンパニーが育成され、杭州市の5G産業発展の促進にもつながり、デジタルエコノミーの規模を2,000億元(約3兆2千億円)まで引き上げる効果も期待されています。

## 5. インドネシア:「続くインフラ投資」

バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人

インドネシアにおいては、4月のMR T（地下鉄）開業をはじめ、インフラ関連への投資が積極的に行われています。今回は、インフラ関連投資や規制の拡大などインドネシアにおける最近のトピックスをご紹介します。

### ■首都移転が決定

2019年8月26日、インドネシア政府は首都移転先をカリマンタン島カリマンタン州東部とすることを発表しました。政府は、移転の目的をジャカルタ周辺の渋滞・大気汚染解消、島間の格差解消としています。今後、2024年までに政府や議会機能の移転を開始する方針で、移転の完了には20年以上の時間が必要とのことです。カリマンタン島東部は、人口密度は低いものの、1人当たりの実質GDPはジャワ島を大きく上回っており、インドネシア国内において比較的裕福な地域で、インフラもある程度整っているそうです。今後は、移転に必要とされる466兆ルピア（約3兆5千億円）の財源を将来に亘って確保していくことや、ジャカルタ市民の9割以上が反対している状況への対応などが政府に求められています。

### ■ナンバー規制の拡大（渋滞対策）

既にジャカルタ市内で実施されているナンバープレート末尾の数字による交通規制の対象範囲が、2019年9月9日より拡大しました。これまで、平日午前6時から10時、午後4時から9時まで9本の主要通りで行われていたものが、25本の通りに大幅に拡大。時間も午後4時から10時までと1時間延長されました（午前は変更なし）。違反者には50万ルピア（約3,800円）の罰金が科せられます。ジャカルタ市内の自家用車での移動は、これまで以上に制限されることとなり、駐在員からは「主要道路がほとんど規制の対象のため、（規制対象となる）月の半分はスケジュールが立てづらく、仕事にならない」と嘆く声も聞かれ、仕事や日常生活に影響が出ることは必至です。

### ■高架高速道路 年末開通予定

報道によると、首都ジャカルタから西ジャワ州チカンペック間の高速道路の高架化事業（全長36<sup>キロ</sup>）は9月末に完成し、年末から全区間で通行可能になるようです。本事業は、ジャカルタ市内から日系企業の多く集まる工業団地方面への既存の高速道路上に、高架の高速道路を開通させるものです。高架上は一般車（トラック等は通行不可）のみ通行可能で、36<sup>キロ</sup>の間にICはなく、長距離走行車を分離させることで渋滞の緩和を図る目的で建設された模様です。毎日数十キロの渋滞が発生している高速道路の渋滞が緩和されるのか、注目が集まっています。



【工事現場はあちこちで見られる＝ジャカルタ市内】

インドネシアでは国家規模から局地的な投資まで、日々、インフラ投資が行われています。その成果により、年々少しずつ生活環境は向上しており、今後のインフラ投資にも注目です。

## 6. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
8月26日	14.87321	8月27日	14.92003	8月28日	14.85972	8月29日	14.88671	8月30日	14.95998
9月2日	14.91335	9月3日	14.89913	9月4日	14.87830	9月5日	14.98689	9月6日	15.04755
9月9日	15.06705	9月10日	15.10962	9月11日	15.16737	9月12日	15.20126	9月13日	-
9月16日	15.23786	9月17日	15.28024	9月18日	15.28187	9月19日	15.29684	9月20日	15.25088



上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。  
そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

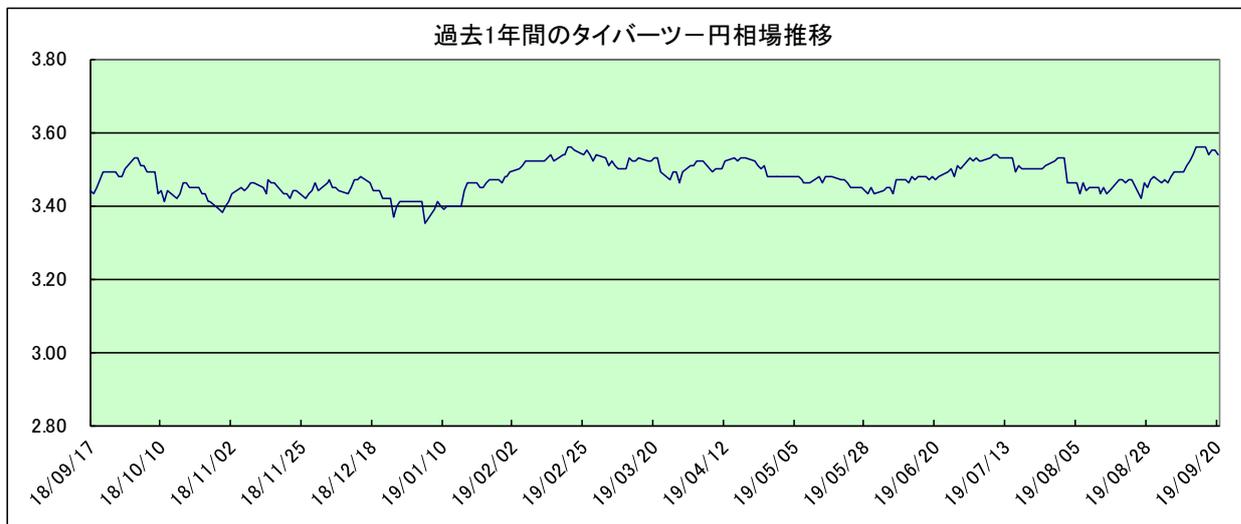
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
8月26日	105.08	8月27日	105.83	8月28日	105.73	8月29日	106.03	8月30日	106.46
9月2日	106.14	9月3日	106.33	9月4日	105.93	9月5日	106.42	9月6日	107.07
9月9日	106.95	9月10日	107.45	9月11日	107.66	9月12日	108.09	9月13日	108.25
9月16日	-	9月17日	108.20	9月18日	108.21	9月19日	108.43	9月20日	108.06



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

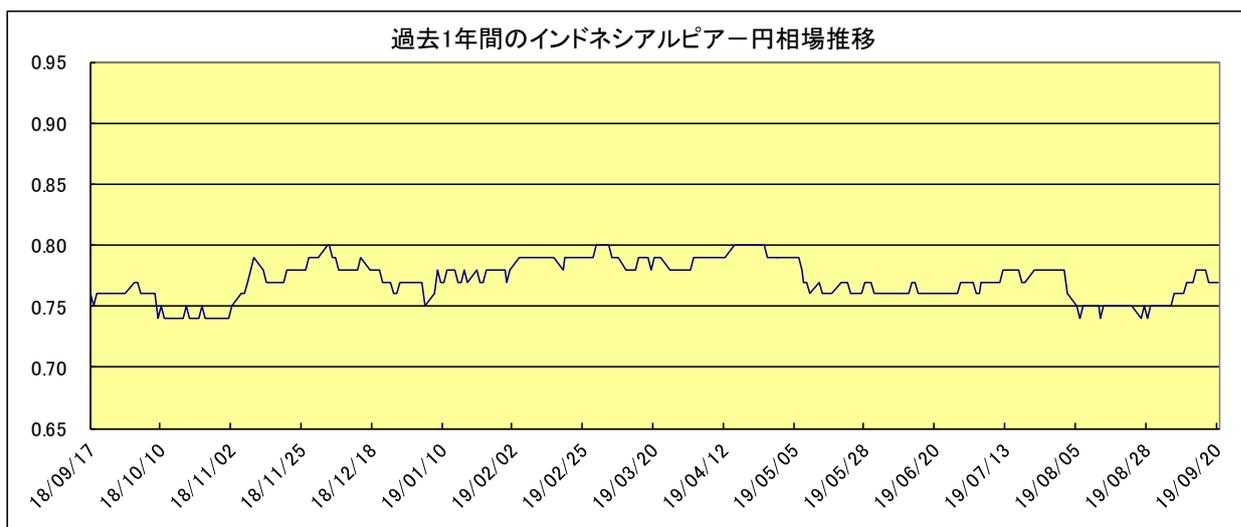
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
8月26日	3.4200	8月27日	3.4600	8月28日	3.4500	8月29日	3.4700	8月30日	3.4800
9月2日	3.4600	9月3日	3.4700	9月4日	3.4600	9月5日	3.4800	9月6日	3.4900
9月9日	3.4900	9月10日	3.5100	9月11日	3.5200	9月12日	3.5400	9月13日	3.5600
9月16日	-	9月17日	3.5400	9月18日	3.5500	9月19日	3.5500	9月20日	3.5400



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
8月26日	0.7400	8月27日	0.7500	8月28日	0.7400	8月29日	0.7500	8月30日	0.7500
9月2日	0.7500	9月3日	0.7500	9月4日	0.7500	9月5日	0.7500	9月6日	0.7600
9月9日	0.7600	9月10日	0.7700	9月11日	0.7700	9月12日	0.7700	9月13日	0.7800
9月16日	-	9月17日	0.7700	9月18日	0.7700	9月19日	0.7700	9月20日	0.7700



(5) シンガポールドル-円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
8月26日	75.6100	8月27日	76.2400	8月28日	76.1200	8月29日	76.3900	8月30日	76.6800
9月2日	76.3900	9月3日	76.3800	9月4日	76.2100	9月5日	76.8400	9月6日	77.3300
9月9日	77.3900	9月10日	77.8200	9月11日	78.0100	9月12日	78.4600	9月13日	78.7400
9月16日	-	9月17日	78.6700	9月18日	78.7300	9月19日	78.7300	9月20日	78.3800



(6) ベトナムドン-円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
8月26日	4.5200	8月27日	4.5600	8月28日	4.5500	8月29日	4.5600	8月30日	4.5800
9月2日	4.5700	9月3日	4.5800	9月4日	4.5600	9月5日	4.5800	9月6日	4.6100
9月9日	4.6100	9月10日	4.6300	9月11日	4.6300	9月12日	4.6500	9月13日	4.6600
9月16日	-	9月17日	4.6500	9月18日	4.6500	9月19日	4.6600	9月20日	4.6500

